

地方創生事業 進捗状況報告書

デジタル田園都市国家構想交付金事業
旧地方創生推進交付金事業

令和6年7月

目 次

1	デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について	P.2
2	有識者会議の概要	P.3
3	デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の目標指標の達成状況	P.4
4	外部有識者の意見と今後の方向性	P.7

1 デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について

(1) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業について

地方版総合戦略に定められた自主的・主体的で先導的な事業の支援を目的として創設されたものです。補助率が1/2となっており、事業費の1/2に国の交付金が交付されるものとなっています。

当市において、この交付金を活用して実施する事業は「つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト」、「移住支援金事業」の2事業であり、いずれも茨城県との連携事業になります。

このデジタル田園都市国家構想交付金とは、デジタル実装の取組を支援する「デジタル実装タイプ」、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組や拠点施設の整備などを支援する「地方創生推進タイプ」や「地方創生拠点整備タイプ」を設け、デジタルの活用を推進するために創設されました。今まで実施していた地方創生推進交付金はこの「地方創生推進タイプ」に分類されます。現在の計画ではデジタルの要素は特にありませんが、今後このタイプの交付金を活用する際には、デジタルの要素を組み込んだ計画が必要となります。

(2) PDCAについて

デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業を総合的かつ計画的に実施するにあたり、広く関係者の意見を反映させるため、産業関係者、官公庁関係者、学識経験者、金融機関関係者、労働団体関係者、報道機関関係者、議会代表、市民の代表者からなる創生推進会議を開催します。特に施策ごとに設定した目標値の達成度について評価を行うこととし、会議での意見を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

(3) 評価方法について

実績に基づく地方創生関連交付金を活用した事業にあたっては、掲載している2事業の施策に掲げている3つの目標指標を対象とし、達成度を評価しました。

【目標指標の評価方法について】

A 実績値が目標指標の100%以上	目標値を大きく上回って達成
B 実績値が目標指標の80～99%	目標値を概ね達成できる見込
C 実績値が目標指標の50～79%	目標値の達成に向け、進捗が進んでいる状態
D 実績値が目標指標の50%未満	目標値の達成に向け、進捗が遅れている状態

※ A 及び B 評価の事業を目標達成見込とする。

2 有識者会議の概要

令和6年5月29日に「令和6年度第1回北茨城市創生推進会議」を開催しました。今年度については、令和元年度に採択された地方創生推進交付金を活用した事業（2事業）、及び第2期北茨城市創生総合戦略で掲げた具体的施策（16事業※）について、16名の有識者の方から御意見を頂戴しました。いただいた意見については、7頁の「4 外部有識者の意見と今後の方向性」のとおりです。

頂いた御意見等については、今後の地方創生事業の推進に当たり、反映させていく予定です。

※別添『第2期北茨城市創生総合戦略事業進捗状況報告書』に記載。

デジタル田園都市国家構想交付金事業の目標指標の達成状況

事業名	目標指標	担当課	実績値	目標値	評価	頁
つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト（県連携）	移住セミナー参加者数（年当たり）	企画政策課	14人	40人	C	3
	移住・交流ツアー参加者数（年当たり）		17人	20人		
移住支援金事業（県連携）	移住支援金支給件数（年当たり）	企画政策課	0人	2人	D	4

基本目標	新しい人の流れをつくる		
施策名	つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト(県連携)	担当課	企画政策課

事業概要

茨城県と連携して実施する当事業では、関係人口の創出・深化、「しごと」が生まれる仕組みの構築を行うことを目的としている。当市では、「芸術によるまちづくり」を実施していることから、芸術家やアート関心層をターゲットとし、関係人口創出を目的とした当市での創作体験の機会を提供する「お試し創作」の事業、また、地元芸術家との交流を中心として、「しごと」の創出につながる地域資源の見える化を図る「体験ツアー・セミナー」を実施する。

第1期創生総合戦略における取組み

平成29年度より移住体験イベントとして開催し、令和元年度から「つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト」として実施。
 平成29年度～令和元年度累計実績
 ○移住セミナー参加者:64名
 ○移住・交流ツアー参加者:88名

令和5年度取組内容

○移住交流促進事業として、下記のとおり開催した。
 ・移住セミナー(東京・渋谷 2部制) 14名
 ・お試し創作体験1泊2日(市内・ARIGATEE 他) 8名
 ・芸術×移住交流イベント1泊2日(市内・花園オートキャンプ場 他) 9名
 ・北茨城芸術によるまちづくりアンバサダー 14名

総事業費	国・県支出、地方債、他収入の有無	あり
4,326 千円	(地方創生臨時交付金)	

目標指標	令和5年度実績値	令和6年度目標値
移住セミナー参加者数(年当たり)	14人	40人
移住・交流ツアー参加者数(年当たり)	17人	20人
評価	評価理由及び事業の進捗状況	
C	2つの目標指標では目標値を達成することができなかった。セミナーには昨年度参加し、リピーターとなった方もいたが、参加者は目標値の半分以上であった。また、移住・交流ツアーについては、能登半島地震の発生により、当初の計画時期を急遽延期した影響もあり、3月開催には都合が合わない等で参加できなくなった参加者がいた。	
【目標値を達成した場合】 次の目標等について		
【目標値を達成していない場合】 改善策について	「芸術」と「移住」という組み合わせについて、ターゲット層が限定的であることや移住後の創作活動展開が乏しい等、課題が大きい。事業ではそれらを解決できるように進めたが、具体的に解決するまでには至らなかった。今後は「芸術家の移住」を一度、検証・精査した上でターゲットをどのようにするのか、どこを強みにするのか、分析し、進めていきたい。	

※目標値は地方創生推進交付金の実施計画に記載されているKPIとは異なり、市独自で設定している。

基本目標	新しい人の流れをつくる		
施策名	移住支援金(県連携)	担当課	企画政策課

事業概要

東京圏から当市へ移住し、県内の中小企業等に勤める方や起業した方(諸条件あり)に対し最大で100万円を支給することで、移住の促進を図るとともに、市内の中小企業等の人手不足の解消を目的とする。

第1期創生総合戦略における取組み

令和元年度より県と連携の事業として実施。申請は0件であった。

令和5年度取組内容

令和5年度においては、茨城県と連携して行う本事業について、参画しなかった。

総事業費	国・県支出、地方債、他収入の有無	なし
0 千円	()	

目標指標	令和5年度実績値	令和6年度目標値
移住支援金支給件数(年当たり)	0人	2人
評価	評価理由及び事業の進捗状況	
D	事業に参画しておらず、実績がないため、D評価とした。	
【目標値を達成した場合】 次の目標等について		
【目標値を達成していない場合】 改善策について	移住支援としては引き続き、移住支援ポータルサイトを中心とした空き家バンク等の住まいに関する情報、ハローワークからの求人情報、当市に「移住してからの支援制度」の情報提供を行う。また、移住相談体制として、国や県が主催する移住フェアや出張窓口への参加を検討している。	

※目標値は地方創生推進交付金の実施計画に記載されているKPIとは異なり、市独自で設定したものであり、創生総合戦略上の目標とは異なる。

4 外部有識者の意見と今後の方向性

(1) 交付金活用事業に対する意見について

意見	対応
つながるチャレンジフィールドプロジェクトにおいて、「芸術」と「移住」を組み合わせているが、若い芸術家にとって、「移住」というハードルは高いと感じている。 若い芸術家向けには、短期（数週間から数ヶ月程度）のアーティスト・イン・レジデンスを企画し、若干の滞在費と制作費を補助し、期待場など、市内で発表を義務付ける事業はどうか。アーティスト・イン・レジデンスで滞在した芸術家の履歴に北茨城市のレジデンスにいたと書いてあると、北茨城市は評判になる。 「移住」は高齢の芸術家にターゲットを絞り、若い芸術家は北茨城市で、高齢の芸術家からアドバイスが得られる、という方向が現実的だと思われる。豊かな自然と芸術的環境を加えることで、魅力的な地方移住プランになるのではないか。	今までの実績から、芸術家の移住というハードルが高いことは認識している。 アーティスト・イン・レジデンスについては、具体的には取組めていない。アーティスト・イン・レジデンスで北茨城市に滞在した芸術家とその後、関係が持てるという話であれば、先々まで発展していく施策になるので、展開を検討していきたい。

(2) 今後の方向性

移住支援としては引き続き、移住支援ポータルサイトを中心とした空き家バンク等の住まいに関する情報、ハローワークからの求人情報、当市に「移住してからの支援制度」の情報提供を行う。

また、移住相談体制として、国や県が主催する移住フェアや出張窓口への参加を検討している。

「芸術」と「移住」という組み合わせについて、ターゲット層が限定的であることや移住後の創作活動展開が乏しい等、課題が大きい。事業ではそれらを解決できるように進めたが、具体的に解決するまでには至らなかった。今後は「芸術家の移住」を一度、検証・精査した上でターゲットをどのようにするのか、どこを強みにするのか、分析し、進めていきたい。